

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 16 日現在

機関番号： 32677  
研究種目： 基盤研究（C）  
研究期間： 2010 ～ 2012  
課題番号： 22520444  
研究課題名（和文） 近世ドイツにおける文書の社会語用論的研究—宗教改革期の民衆教化文書を中心に  
研究課題名（英文） Socio-pragmatic Research on Early Modern German Documents – focusing on reformation period religious propagation materials

研究代表者  
新田 春夫 (NITTA HARUO)  
武蔵大学・人文学部・教授  
研究者番号：00012443

## 研究成果の概要（和文）：

宗教改革運動の中で民衆教化に用いられたさまざまな種類のドイツ語文書にはカトリックとプロテスタントのそれぞれのイデオロギーが色濃く反映されており、それらは言語的ストラテジーの違いとなって表れている。

カトリックはエリートを教化の対象とし、さまざまな修辭的手段を駆使し、統語論的にも複雑で、ときにはラテン語を引用するなど、高踏的な文章を書く傾向が強いのに対し、プロテスタントは庶民に向かって、統語論的にも単純で、耳で聴いてもわかりやすく、また、ときには粗野な表現を使い、日常的な格言をまじえるなど、簡潔で力強い文章のものが多いという対照が見られた。

## 研究成果の概要（英文）：

There are various types of materials written in German with the aim of religious propagation, but they all are quite clearly colored by either catholic or protestant ideologies - differences that affect language strategy.

In contrast to Protestants, whose writing style was clear and had impact, addressed commoners, was syntactically simplistic, easily understood in speech as well as writing, and sometimes used colloquial expressions and/or proverbs, Catholic writers tended to be esoteric and address elite classes making use of rhetorical devices, complex syntactic structures, and sometimes quotations in Latin.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：ドイツ語学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：言語学、ドイツ語学、社会語用論、文書類型、民衆教化文書、近世ドイツ語、近世ドイツ、宗教改革

1. 研究開始当初の背景

- (1) 2007～2009年度の科研費による「ドイツ宗教改革期論争書の語用論的研究」の成果を継承発展させるために、論争書に代わって、他の文書類型の文書も分析対象とする必要があることが感じられた。
- (2) ドイツ語の社会語用論的研究にはカトリックとプロテスタントの宗派的対立という場面におけるそれぞれの言語的ストラテジーを分析するという方法が有効であるとの認識に至った。
- (3) カトリックとプロテスタントの宗派的対立を表す文書としては論争書に次いで教化文書が分析に適切であると考えられた。

2. 研究の目的

- (1) 言語が社会の特定の場面で使われる際の言語の使われ方を分析、記述する。
- (2) 現代語が現代社会の特定の場面において口頭で使われる際の言語使用を分析する語用論ではなく、歴史上の何らかの社会的状況の中での言語使用を、それが記され

た文書を対象として分析、記述する歴史的  
社会語用論を確立する。

- (3) そのケーススタディとして、宗教改革運動におけるカトリックとプロテスタントの宗派的対立における彼らの言語的ストラテジーを明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

- (1) 宗教改革運動におけるカトリックとプロテスタントの宗派的対立を社会的言語使用の場面として設定した。
- (2) カトリックとプロテスタントによるドイツ語民衆教化文書を収集し、分析対象とした。
- (2) それらのドイツ語民衆教化文書を社会語用論の枠組みによって体系的に分析、記述した。

4. 研究成果

- (1) カトリックはドイツ社会のエリート層の市民を教化の対象とし、プロテスタントは農民、市民などの一般庶民を教化の対象

- とした。
- (2) カトリックは教化文書に教養を誇示し、権威付けをするためにラテン語を引用することもあったが、プロテスタントはもっぱらドイツ語を使った。
- (3) カトリックは修辭的な技巧を凝らした文章を書いたが、そこに使われた文彩としては比喩、婉曲、修辭疑問、二重否定、逆言法、皮肉など、多彩であった。
- (4) 統語的にもカトリックは入れ子型文など複雑な文を好んだのに対し、プロテスタントは短文をつなげた単純な構造の文ではあるが、平行的、対比的構文などによって明晰な文章を書く者も少なくなかった。また、プロテスタントは相手を罵倒する言葉を使うなど粗野で攻撃的であったり、日常的な格言を使うことによって簡単でわかりやすい文章を書いた。
- (5) カトリックとプロテスタントの言語的戦略は教化文書においても論争書と基本的には同様の分析結果が得られたが、教化文書の場合は、論争書よりも、カトリック、プロテスタントともに、論争書よりも言語が平易である傾向が認められる。また、教化文書の種類もはるかに多岐にわたっている。
- (6) 民衆教化文書には教理問答書、対話書、箴言詩、阿呆文学、寓話、演劇テキスト、宗教歌など教化の対象や方法によってさまざまなものが書かれた。
- (7) 教理問答書は青少年にキリスト教の基本的理念を教えるものであり、カトリック、プロテスタントそれぞれの立場から重要視され、言語的にも厳密かつ簡潔な表現が顕著である。
- (8) 対話書は教理問答書の流れをくむものであり、対話によってカトリックとプロテスタントのどちらが正しいかを論じるも

のであるが、演劇仕立てにすることによってより効果的なものになっている。対話書はもっぱらプロテスタント陣営の人文学者、神学者によって書かれた。

(9) カトリック、プロテスタントそれぞれ自陣営の後進である青少年に対する教育手段としてギュムナジウム等における学校演劇が重要視され、カトリックによってもプロテスタントによってもともに多数の演劇テキストが書かれ、上演された。

(10) 中世以来の伝統的演劇素材である『エブリマン』や新約聖書の中のイエスの語った寓話である『放蕩息子の帰還』などのテーマはカトリックによってもプロテスタントによっても好んで演劇化された素材である。それらは宗派ごとのイデオロギーの違いと言語的戦略の差が具体的に確認され、語用論的分析の格好の材料である。

(11) 一般の演劇においては教化ばかりでなく、庶民の娯楽という側面もあり、娯楽を通じて教化するという方法がとられた。

(12) 阿呆文学や寓話は阿呆や動物などに仮託することによって間接的に教化、啓蒙を図ったものであるが、娯楽の要素もこめられている。また、阿呆文学はその宗教観からプロテスタントによって書かれることはなく、もっぱらカトリックによって書かれた。

(13) 箴言詩、宗教歌などは文芸、音楽などの芸術の力によって一般庶民を教化しようとするものである。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

① 新田春夫、Schriften als

Kampfinstrument „des gemeinens Mannes“ – Die deutsche Literatur des Reformationszeitalters、武蔵大学人文学会雑誌、査読無、第 41 巻、2010、39-68

- ② 新田春夫、浮き彫りと反転ークリスタ・ヴォルフの初期作品における文体とイロニー、武蔵大学人文学会雑誌、査読無、第 42 巻、2011、13-42
- ③ 新田春夫、近世ドイツ宗教改革運動における民衆教化文書の社会語用論的考察、武蔵大学人文学会雑誌、査読無、第 43 巻、2012、1-52
- ④ 新田春夫、言語と文法ーあるいは、「偏見」について、武蔵大学人文学会雑誌、査読無、第 44 巻、2012、1-58
- ⑤ 新田春夫、戦いの手段としてのドイツ語ー近世宗教改革運動におけるドイツ語文書、高田博行・新田春夫編「ドイツ語の歴史論」、査読有、2013、171-197
- ⑥ 新田春夫、初期新高ドイツ語の造語ー名詞句と複合名詞のはざま、高田博行・新田春夫編「ドイツ語の歴史論」、査読有、2013、117-141
- ⑦ 新田春夫・高田博行、ドイツ語の歴史(通史)、高田博行・新田春夫編「ドイツ語の歴史論」、査読有、2013、1-34

[学会発表] (計 1 件)

- ① 新田春夫、Reliefgebung durch negativen Bezug zur Realität in den frühen Werken von Christa Wolf.第 12 回国際ドイツ語・ドイツ文学会(IVG)、2010.8.3 ワルシャワ (ポーランド)

[図書] (計 1 件)

- ① 新田春夫・高田博行、ひつじ書房、ドイツ語の歴史論 2013、295

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

新田 春夫 (NITTA HARUO)  
武蔵大学・人文学部・教授  
研究者番号：00012443

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：